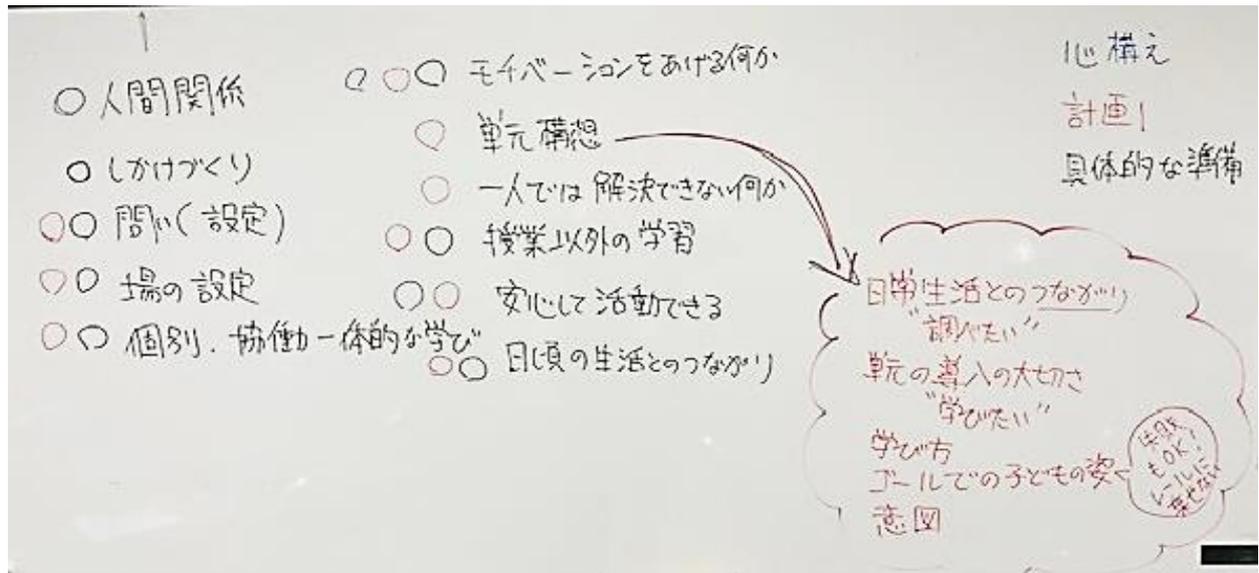


2 班



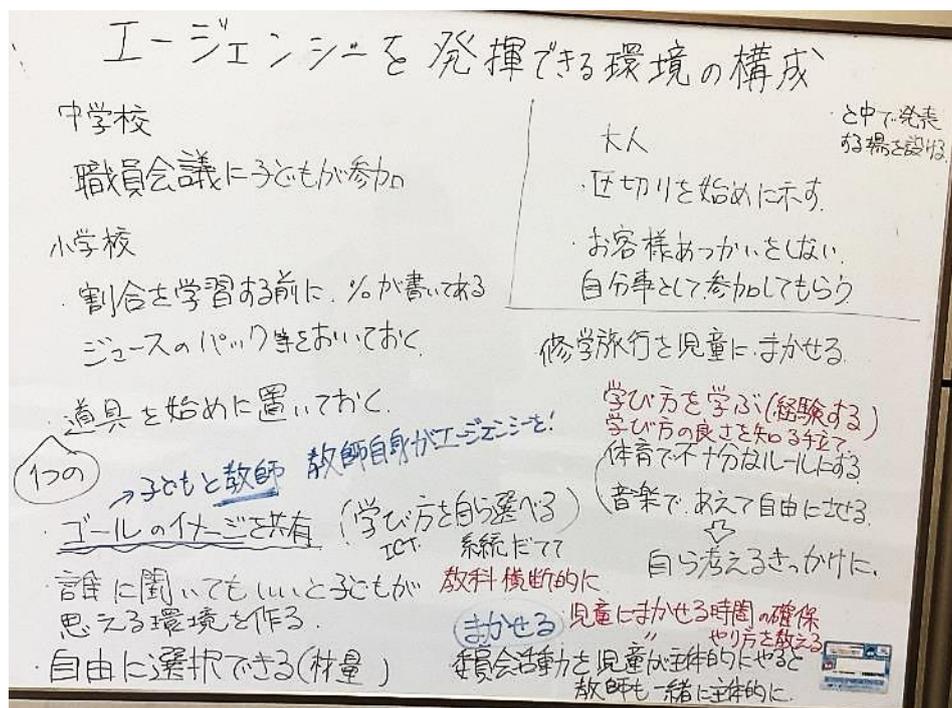
| 教師や担当者の心構え | 計画 | 具体的な準備 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 人間関係 モチベーションをあげる何か 安心して活動できる | <ul style="list-style-type: none"> 問いの設定 場の設定 個別最適な学びと協働的な学びの一体化 モチベーションをあげる何か 単元構想 一人では解決できない何か 授業以外の学習 安心して活動できる 日頃の生活とのつながり | <ul style="list-style-type: none"> 仕掛けづくり 問いの設定 場の設定 個別最適な学びと協働的な学びの一体化 モチベーションをあげる何か 授業以外の学習 日頃の生活とのつながり |

協議の中で出された「エージェンシーを発揮できる環境の構成」について1つ選択し深めた内容です。

【単元構想】

- 日常生活とのつながり（理科・社会等で子供たちが“調べたい”と思わせるつながり）
- 単元の導入の大切さ（子どもたちに“学びたい”と思わせる導入）
- 学び方の必要性（ペア活動やグループ活動等）
- ゴールでの子どもの姿の明確化。ただし、失敗もOK。教師のルールに乗せないことも大切である。
- 教師が子供の姿等、何を大事にして授業を行ったか確認する
- 教師がゴールでの子どもの姿を意図して設定しているか

3 班



意見

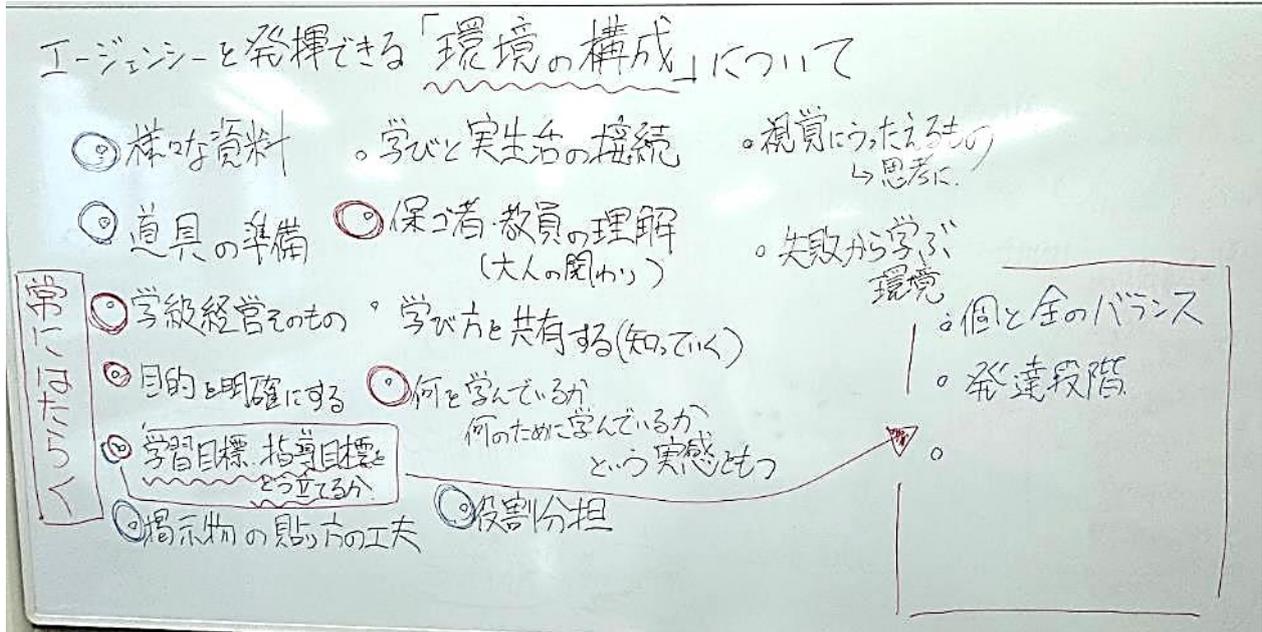
- ・職員会議に生徒に参加してもらう。
- ・校則を生徒に見直してもらう。
- ・学習する前に、それに関するものを掲示する
(割合の学習：%が書かれているジュースのパック、○割と書かれたちらし等)
- ・最初に不十分な状況をつくることで自ら考えるきっかけに。
例：ルールを不十分にする。サッカーの学習でボールだけ置いておく。子供たちがルールや考える音楽であえて自由にさせる。
- ・誰に聞いてもいいと子どもが思える環境作り
- ・自由に選択できる状況（材料、学び方、資料、対話の相手）。
- ・大人の話し合いの際（学校運営協議会等）に時間の区切りを始めに示す。
- ・学校運営協議会では、お客様扱いしないことで自分事として参加してもらえらる。
- ・修学旅行で児童に行く先、活動内容等を任せる。
- ・委員会活動について、学校教育目標をもとに児童生徒に提案させる（任せる）。

協議の中で出された「エージェンシーを発揮できる環境の構成」について1つ選択し深めた内容です。

【ゴールの設定】

- ・教師と子どもがゴールイメージを共有する。
- ・児童の任せる時間の確保
- ・教科横断的な視点をもつ。
- ・考えるための枠が必要。
- ・学び方を経験する。
- ・学び方のよさを知る（振り返り）

4 班



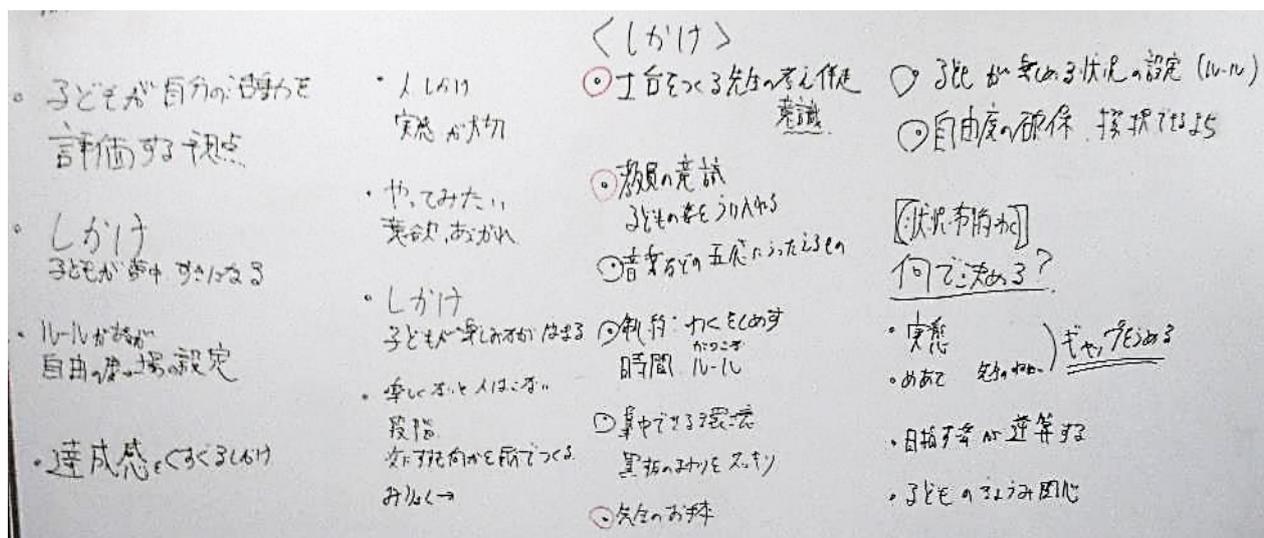
| 常に働かせているもの | 具体的な枝葉の部分 | その他 |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 学級経営そのもの 目的を明確にする 学習目標や指導目標をどう立てるか 保護者や他の教員の理解 (大人の関わり) 何を学んでいるか 何のために学んでいるか その実感を持つ | <ul style="list-style-type: none"> 様々な資料 道具の準備 役割分担 掲示物の梁型の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> 学びと実生活との接続 視覚から思考に訴える 失敗から学ぶ環境 |

協議の中で出された「エージェンシーを發揮できる環境の構成」について1つ選択し深めた内容です。

【学習目標や指導目標の立て方】

- ・個人の目標と学級全体の目標を両立する
- ・発達段階に応じて設定する

5 班

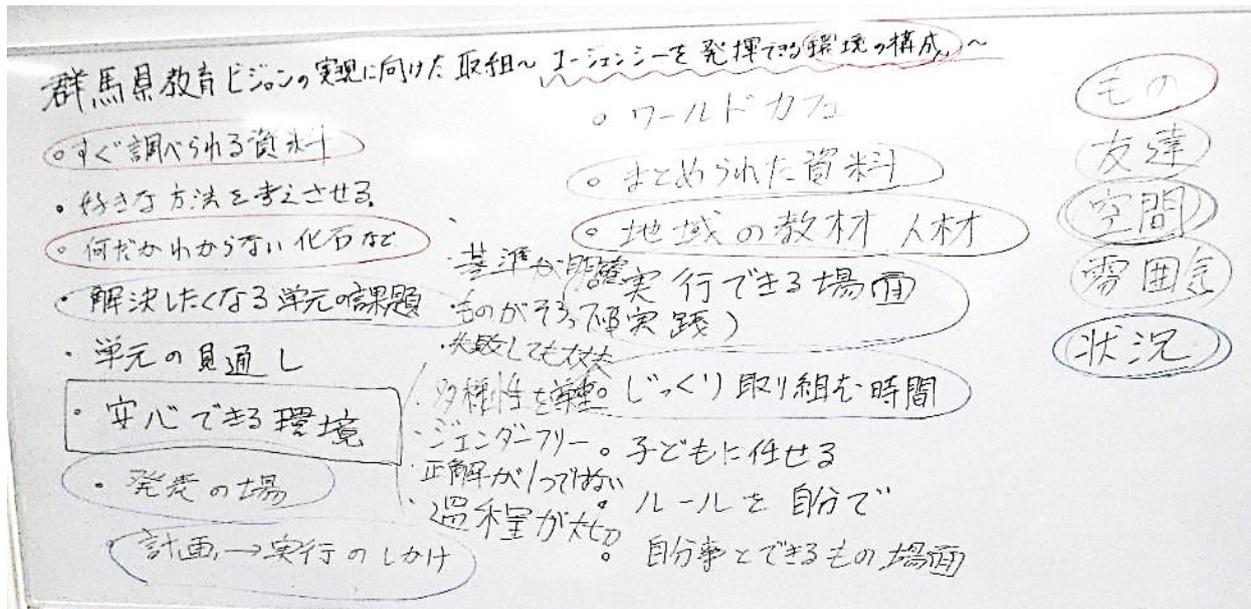


| 教師や事業担当者の意識 | 状況、場所、道具、ルール等の具体的なもの |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しくなければ人は来ない、楽しいだけでは学びがないという計画をする際の心構え ・ エージェンシーを発揮できる土台を作るという先生の意識 ・ 子どもの姿を受け入れるという意識 ・ 教師や事業担当者が子どもや参加者にお手本を見せる必要もある | <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供や参加者が夢中になり、好きになるしかけ ・ ある程度のルールがある中で子供や参加者に自由度がある場の設定 ・ 子供や参加者の達成感をくすぐるしかけ ・ 学び等の実感をもてるしかけや人の関わり ・ 子供や参加者の意欲を高めたり憧れを持ってたりするなど、“やってみたい”と思えるしかけ ・ 活動等に対する魅力を感じるころからスタートし、次に進むための何かを自分で作っていくという流れ、見通し ・ 音楽等の五感にうったえるもの ・ 時間や簡単なルール等のある程度の制約や枠 ・ 黒板周辺をすっきりする等、集中できる環境 ・ 子供や参加者が楽しめる状況やルールの設定 ・ 子供や参加者が選択の余地がある自由度 |

協議の中で出された「エージェンシーを発揮できる環境の構成」について1つ選択し深めた内容です。

| 【しかけ (状況や制約、枠)の設定の仕方】 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す姿を具体的に想像する ・ 子供や参加者の実態を把握する ・ 目指す姿と、子供や参加者の実態のギャップを埋めるという意識をもち、工夫をする ・ 目指す姿から逆算する ・ 子供や参加者の興味関心を把握する |

6 班

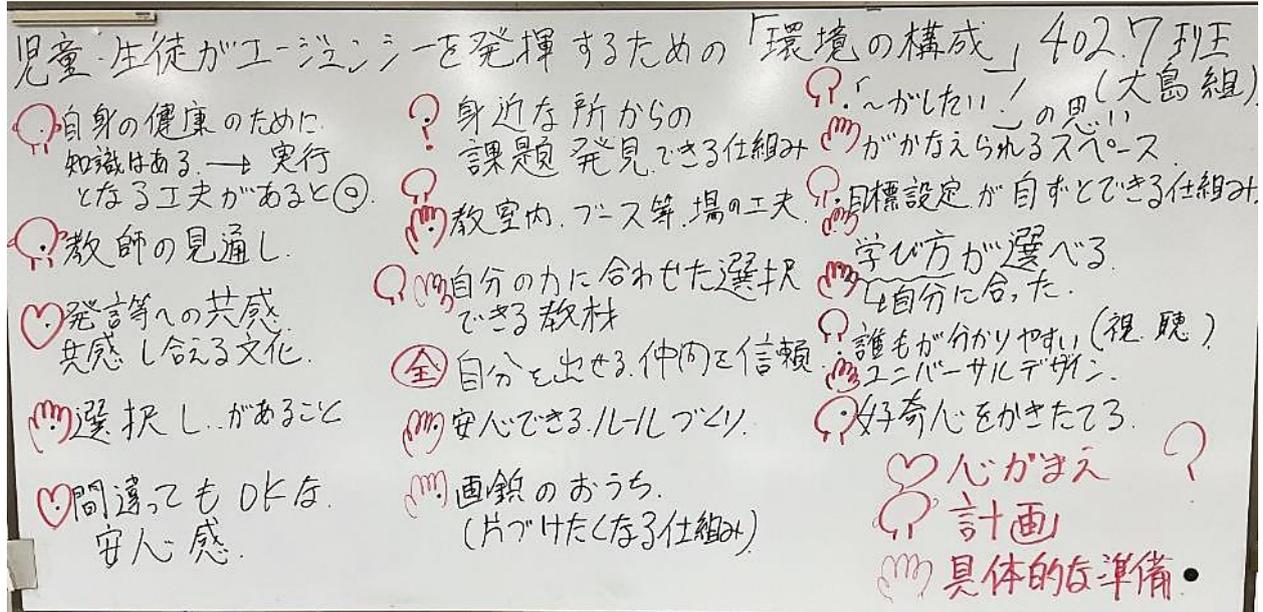


| 担当の心構え(空間・雰囲気) | 計画(状況) | 具体的な準備(もの) |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・何もせず子どもに任せること ・安心して活動できる環境 ・誰でも発言できる場 ・実践や実行できる場面 ・じっくりと取り組める時間 | <ul style="list-style-type: none"> ・好きな方法・解放を考えさせる ・単元の見通し ・ワールドカフェ方式 ・ルールを自分たちで決定 ・問いの設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・すぐ調べられる資料 ・何だかわからない(予想できない)教材 ・解決したくなる単元の課題 ・計画を実行する仕掛け ・1枚にまとめられた資料 ・地域の教材や人材 ・自分事として考えられるもの ・モチベーションをあげるBGM |

協議の中で出された「エージェンシーを發揮できる環境の構成」について1つ選択し深めた内容です。

| 【安心して活動できる環境とは】 | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ルールや基準が明確である ・活動するためのモノがすべて揃っている ・失敗しても大丈夫な雰囲気 ・答えより過程を大切にする | <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーフリー ・多様性を尊重できること ・答えが1つではない状況 |

7 班



| 教師側の心構え | 計画 | 具体的な準備 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 発言等への共感し合える文化 ・ 間違っても OK な安心感 ・ 自分を出せる、仲間を信頼できる | <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識→実行となる工夫 ・ 教師の見通し ・ (身近な所から課題発見できる仕組み) ・ 教室内にブース等、場の工夫 ・ 自分の力に合わせた選択できる教材 ・ 自分を出せる、仲間を信頼できる ・ 「～したい」の思いがかなえられるスペース ・ 目標設定がおのずとできる仕組み ・ 誰もが分かりやすい(視・聴)ユニバーサルデザイン ・ 好奇心をかき立てる | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室内にブース等、場の工夫 ・ 自分を出せる、仲間を信頼できる ・ 安心できるルールづくり ・ 「画鋏のおうち」(片付けたくなる仕組み) ・ 「～したい」の思いがかなえられるスペース ・ 目標設定がおのずとできる仕組み ・ 学び方を選べる ・ 誰もが分かりやすい(視・聴)ユニバーサルデザイン |

※協議を進める中で、“一人一人の思いを大事にできる環境づくり”が、参加者の方が日常から大切に感じていることが分かりました。

8 班

8 班 群馬県教育ビジョンの実現に向けた取組について ~エージェンシーを発揮できる環境の構成~

- ・ICTの活用 ㊦
- ・机の配置 ㊦
- ・各教科の(3)の見直し
- ・英語での目的・場面・状況 ㊦
- ・わくわくする目標の設定 ㊦
- ・選べる資料提示 ㊦
- ・個々の成長に合わせた目標 ㊦
- ・次につなげるための仕組み ㊦
- ・(個だけでない)仲間と一緒に ㊦
- ・失敗と思わせない学習活動 ㊦
- ・動ける学習形態 ㊦
- ・モデルとなるもの人 ㊦
- ・ピアサポートのある風土づくり ☆
- ・子どもにゆだねることができる学級づくり ☆

㊦ 具体的にできる準備(もの?) ☆ 雰囲気・風土づくり

㊦ 単元構想(目標など)

| 雰囲気・風土づくり (教師や担当者の心構え?) | 単元構想(目標など) (計画) | 具体的な準備 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが主体的に活動することができる学級経営(例:学活、ピアサポートのある雰囲気づくり等) ・子供に委ねることができる学級づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちがわくわくするような目標設定 ・目標(モデル)となるような人物の提示 ・個々の成長に合わせた目標設定 ・仲間との活動(交流・協働)を意図的に入れる ・失敗を失敗と思わせない学習活動 ・座席を固定せず自由に交流できるような学習形態 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用 ・座席の配置 ・次時へつなげるための仕組み、仕掛け ・子供たちが選択できる教材や場の提供 |

9 班

「エージェンシー」を発揮できる環境の構成について
 → 第4回で発表
 ・人 ○特別支援 園児その子を知る ○心構え
 ○情報へのアクセスがすぐにできる ○計画
 ○北風と太陽 ○自分で決められる(やりたいこと実現者しか)
 ○予想など意図や図、選べる自由度 ○準備
 ○感覚でつかめるもの(教材など) ← 準備全部任せない
 ○物の数量(多め) ○あふと困り感 → 工夫が生まれる
 何を学ばせたいか?
 ○ストーリー ○教師の子どもにまかせる勇気
 ○発問 → オープンクエスチョン → 一つに決めない、方向づけない
 ○発達段階、バックをどれだけ分かっているか?
 ○自分と他者の考えの比較、読み取る
 ○安心できる土台 エージェンシーの発揮

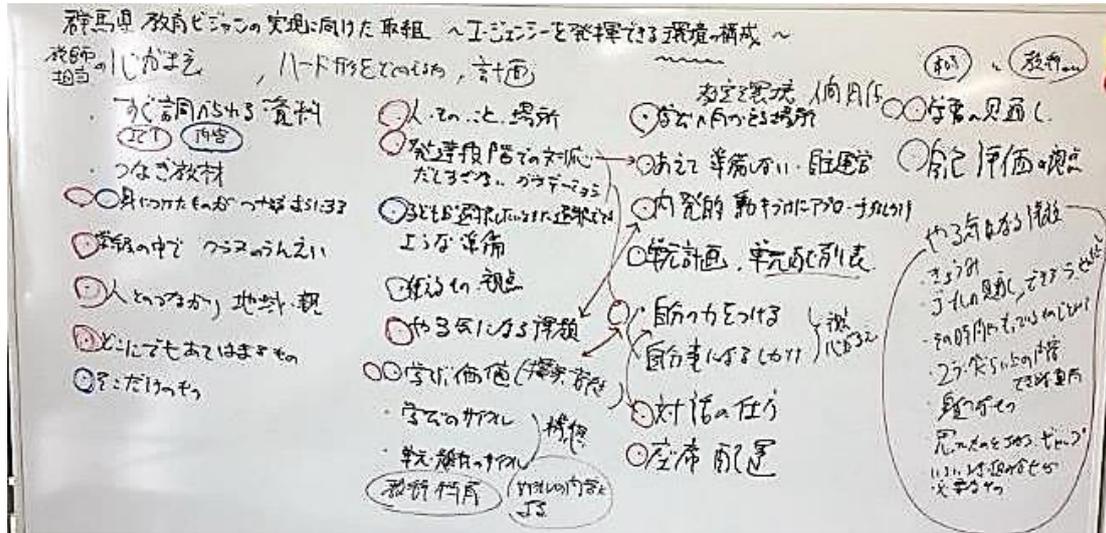
【例】心構え
 教師の子どもにまかせる勇気 (どんな場面? どんなとき?)
 ○ゴールは持っている → 発問の工夫
 ○ルールなど
 ○課題等、自由進度…まかせてみる (教材の特性がある)
 ○条件を作って考えさせる。(旅行○○円等)
 ○自分の課題解決は任せたい…そのための準備(環境の構成)
 ○休み時間をもっと自由に遊ばせる。大人の都合で縛っている。
 失敗しても大丈夫という大人の気持ち。安全面
 ○総合的な学習、子どもに寄り添う覚悟。生徒指導
 ○小さい失敗を積み、学ばせる
 ○させてあげてほしい。失敗から学ぶとまかせていい。

| 教師側の心構え | 計画 | 具体的な準備 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援、園児やその子を知る。 ・北風と太陽 ・予想など意図や図、選べる自由度 ・教師の子どもに任せる勇気 ・発問 → オープンクエスチョン → 一つに決めない、方向付けない。 ・発達段階、バックをどれだけ分かっているか。 ・自分と他者の考えの比較、読み取る ・安心できる土台 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報へのアクセスがすぐにできる。 ・自分で決められる。(やりたいことの実現、仕掛け) ・予想など意図や図、選べる自由度 ・物の数量(多め) → 何を学ばせたいか ・ちょっと困り感 → 工夫が生まれある。準備を全部任せない。 ・ストーリー ・発達段階、バックをどれだけ分かっているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報へのアクセスがすぐできる。 ・感覚でつかめるもの(教材など) ・物の数量(多め) → 何を学ばせたいか。 |

協議の中で出された「エージェンシーを発揮できる環境の構成」について1つ選択し深めた内容です。

| 【心構え 教師の子どもにまかせる勇気】 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールは持っている → 発問の工夫 ・ルールなど ・課題、自由進度…任せてみる。 ・条件を作って考えさせる。(修学旅行○○円、どう使うか～) ・自分の課題解決は任せたい。…そのための準備(環境の構成) ・休み時間をもっと自由に遊ばせる。大(大人の都合で縛っている)失敗しても大丈夫という大人の気持ち。安全面の配慮。 ・総合的な学習、子どもに寄り添う覚悟。生徒指導を含めて。 ・小さい失敗を積み、学ばせる。 ・いろいろな経験をさせてあげてない。失敗から学ぶべき。子どもたちに任せたい。 |

西部教育事務所 生涯学習係・学校教育係でのプレ協議



| 教師や担当者の心構え | 計画 | 具体的な準備 |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営 ・人とのつながり 地域、親 ・人・もの・こと・場所 ・発達段階に応じた対応 (グラデーション) ・情報を必要以上に出さない ・やる気になる課題づくり ・授業や普段の生活において取り組む内容の学ぶ価値を感じられるようにすること ・学びに向かえる場所、時間、人間関係 ・子どもや参加者に自主的な運営を促す。あえて準備しない。 ・内発的動機づけへのアプローチ ・子どもや参加者の力をつける ・子どもや参加者が自分事化 ・対話の仕方等の学び方を学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ・学びのサイクル ・どの場面でも生かせるサイクル ・教科等で特有のサイクル ・単元・題材等のサイクル ・単元・題材等の計画 ・学年を見通せる単元・題材等の配列表 ・学習の見通し | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決等に必要情報をすぐに調べられる資料や道具 ・身に付けた内容や身に付けた力 ・子どもや参加者が必要なタイミングで情報や道具を選択できる準備 ・問題解決等に使える視点 ・やる気になる課題の内容 ・座席配置 ・自分自身の問題解決状況を自覚できる評価の視点 |

協議の中で出された「E-ジェンシーを発揮できる環境の構成」について1つ選択し、具体化した

【やる気になる課題】

- ・興味をもてる、身近なもの
- ・ゴールの見通し、できそう、選択肢
- ・その時間で身に付けたものや、持っているもので解決できる
- ・イメージと違うギャップ
- ・適度な負荷をかける、2ランクぐらい上の内容
- ・いろいろな組み合わせが必要なもの